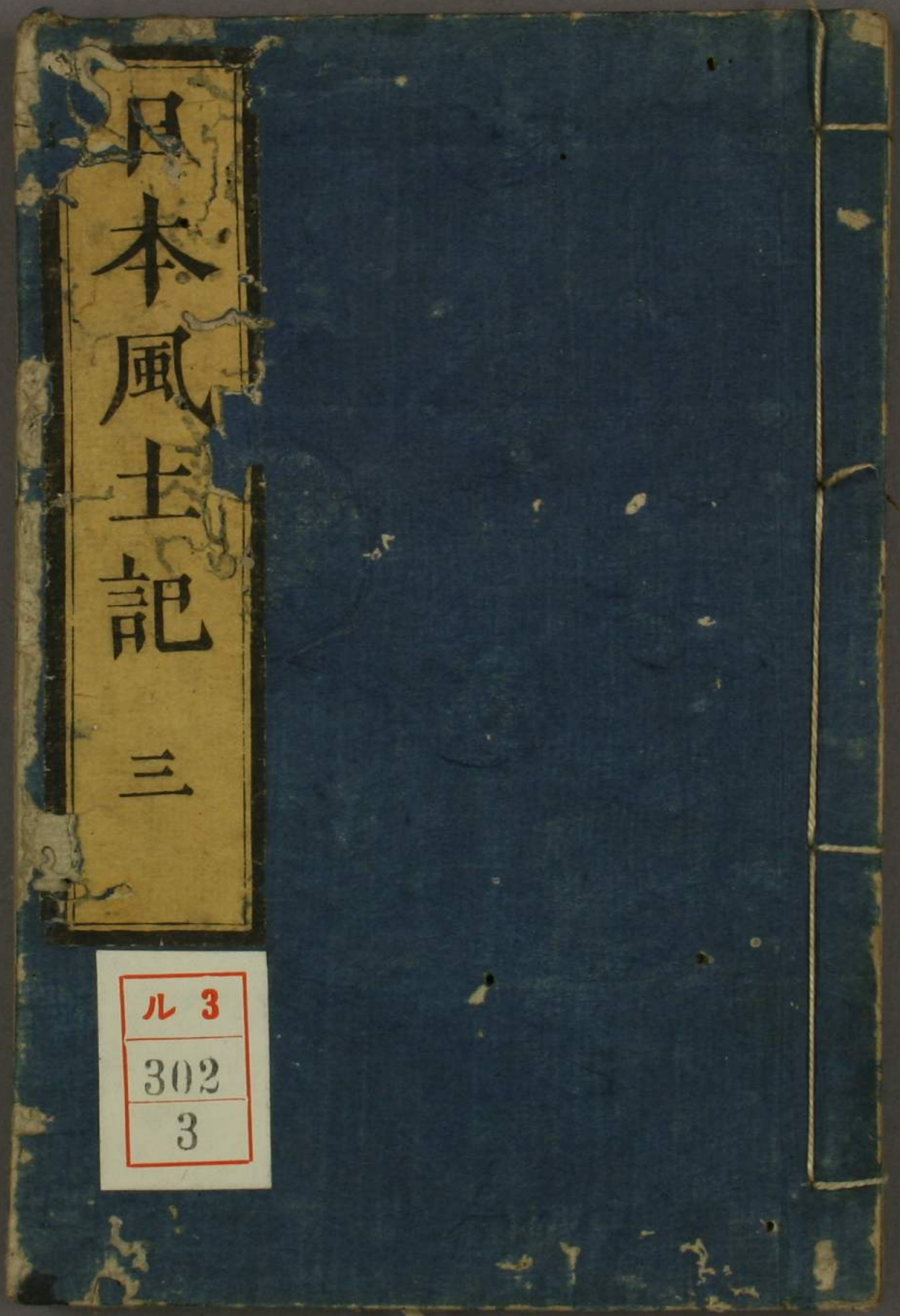


KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



日本風土記
三

ル 3
302
3



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

品 302
新 3
巻

日本風土記卷三

大和國 十五郡

田園 七千九百五丁

神武天皇東征したまひ

南國權を以て治むるに始り

建させり

國造を以て珍貴を治むるに始り

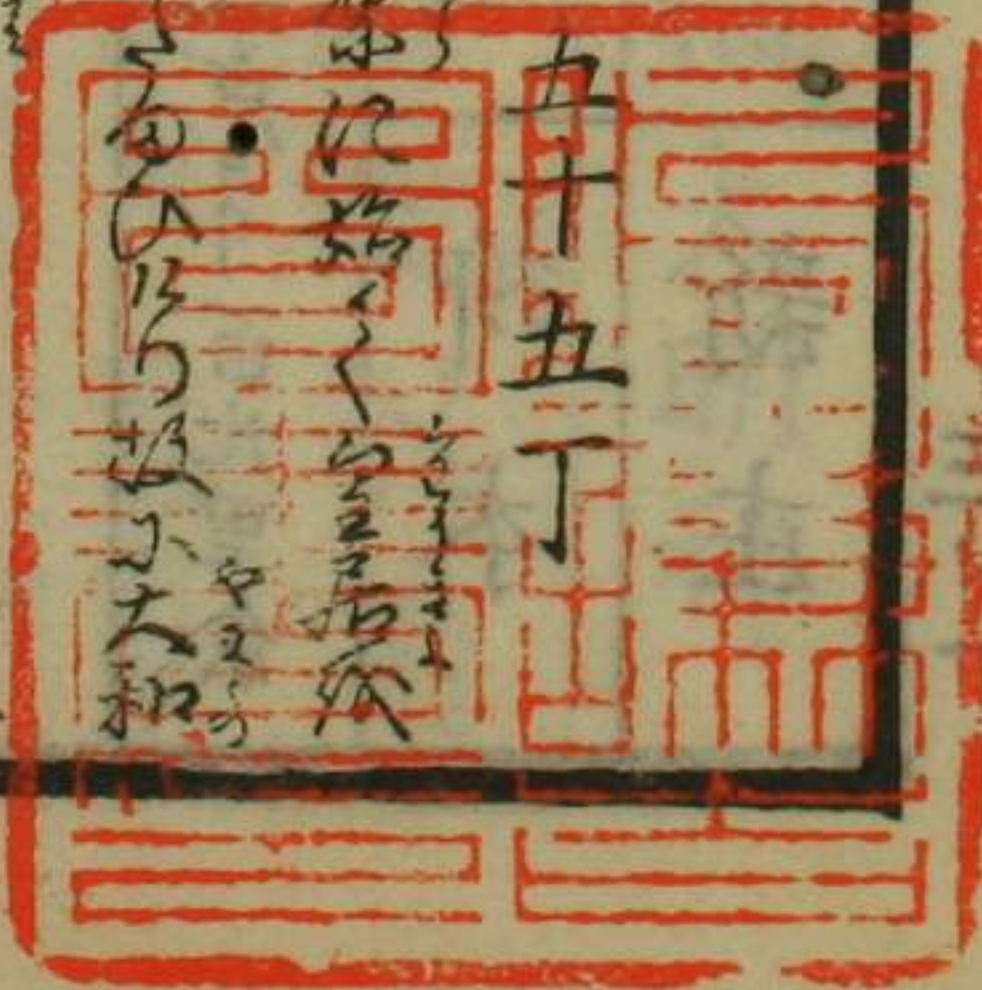
國を日本の熱地にして皇居と營給ふ國あり是は

通稱して一國の名とせり

其の地は温く穴居り民は山より川を穿て

國を治むるに始り又神武帝東征乃時難波より佳馬

山嶺より大和に入たり



山 2

の月小ある國を河内とて山を河内と對する處に
 添上。添下。平都。廣瀨。葛上。葛下。
 忍海。宇智。吉野。宇多。城下。城上。
 高市。十市。山邊

大管大上々國南北百余里

知行高四十四万四千百卅石

江戸ヨリ百九里余

城下	郡山城	高取城	柳本
芝村	小泉	柳生	新庄

三ノ一

大和 一之宮

三輪大明神

名産

奈良酒 油煙墨 霞酒 饅頭 春日山標
 奈良團 櫻根香 要重海 法隆寺沈水香 三輪素麵
 徳天瓜 那山標綿 松田紙羽 高山茶釜 吉野漆 日 楮
 日 葛 絹白干 秋 糸 團 楮紙 吉野紙 釣瓶鮫
 團 栖 臭 漆 院 助 日 蒜 秋 九 志 山 折 敷 吉 野 椀
 日 盆 日 塗 疥 御 所 材 木 練 材 箸 中 糖 抄 土 風 爐
 塗 桶 早 鍋 附 硫 英 滑 皮 馬 皮 膠

鞠 差繩 灰焙瀧 茶控 石上 磐瀨 狛瀨

名所

伊野山 岩橋 石上 磐瀨 狛瀨

小川 琴余 泊瀨 飛火野 十市 豊後

龍門 小倉嶺 忘水 春日山 日野 葛城

柏木杜 神垣山 輕 晴吟小野 形小野 子松野

金津嶽 吉野 龍田 高園 葛天 珠城宮

辰市 手向山 袖振山 六田 七瀬の淀 夏其河

奈良 那良志山 宇治山 宇陀山 宇治山 秋津野

大河邊 大峯 採橋山 采訪橋 山整五 山階寺

真野 益田池 甚向 古河邊 篠原 布留

巨勢 越大野 天香山 穴師山 飛香川 朝原

阿多野 吾妻野 秋篠里 青嶺 佐保 佐野

象山 清河原 猪沢池 在系古 弓柳為 遊圓岡

雪消澤 三笠山 三輪山 三雲 文淵 津和山

神南備 津垣系 耳魚山 榎葉井 標野 笠笠

菱系伏見 菅田池

縣誌

神社

大	石	金	龍	春
玉	上	峰	田	日
八	高	金	廣	水
咫	皇	生	瀨	屋
笹	狹	葛	若	八
播	井	城	宮	幡
丹	鏡	高	御	櫛
生	作	鴨	靈	木
	荒	穴	勝	辰
	神	師	手	市
	高	三	籠	新
	市	輪	守	龍

以上

日本風土記卷三

大和 以大和^ヲ日本^ノ總名^トスルハ此^ノ国^ニ
 人皇帝都之始也故總名トスル也唐土^モ
 周ヨリ起テ世ヲ漢ト云フガ如シ
 起テ世ヲ漢ト云フガ如シ

春日社

漆上郡春日郷ニ有リ

多^ク有^リり^テ社^ハ此^ノ所^ニ有^リり
 有^リり^テ社^ハ此^ノ所^ニ有^リり
 有^リり^テ社^ハ此^ノ所^ニ有^リり
 有^リり^テ社^ハ此^ノ所^ニ有^リり

是に和方ありあり拾遺書に

朝日や春見ればあつた先河つらう言外に

もあはれ終あふも橋とる出橋とつて入る

ゆきやた二平れ橋のりりしる兵出橋と定

もどらちあやうらんあはれゆりり河もどらと

とつしあふとどくあまげの上あはれ玉りれ

つとりひろりんすも片曇れ松のみどりのまど

まらちあはれのあまどやうしりん撰集抄あはれ

あはれは旅ラタヒトコロはるあはれりれあはれあはれ本れ橋

春松葉れ初うさやあはれあはれとさうこれあはれ

あはれ分入る細あふあはれははははユキケリサハ

春日やあはれはあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ率川是に

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

ふきづつとどきもきか方後乃酒水はあ入て
三つゆわくしとどきもきか方後乃酒水はあ入て
法と身ふふん九泉のあーとどきもきか方
あつぐさといやげやとどきもきか方
めんせりノ汝集果あ板本社を格回る社
春日記世社乃あまらあつぐさといやげやとどきもきか方
もよりりもあまらあつぐさといやげやとどきもきか方
あつぐさといやげやとどきもきか方
あつぐさといやげやとどきもきか方

引つとどきもきか方後乃酒水はあ入て

已上大和名所記心 本殿祭神四座

武甕槌命 天津兒屋命

姫太神 ○伊弉諾尊按所帶十握劔軒軻遇

突智其劔鐔垂血激越為神号云雍速日神

次燖速日神其雍速日神是武甕槌神之祖

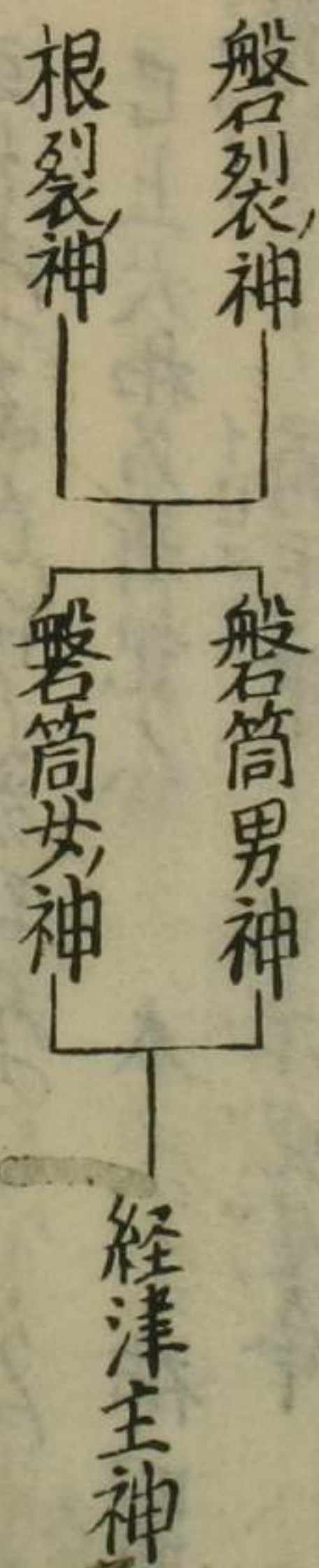
也日本純 ○雍速日神之子燖速日神々々

々々子武甕槌神 月上

● 雍速日神 — 燖速日神 — 武甕槌神

齊主命 又經津主命氏

伊弉諾尊斬軻遇突智其劔刃垂血是為天安河邊所在五百箇磐石也即此經津主神相矣日本紀○高皇產靈尊更會諸神選當遣於葦原中國者僉云磐裂根裂神之子磐筒男磐石筒女所生之子經津主神 月上



天津兒屋命 春日神是也 傳外宮下ニ見テ
磐太神 傳内宮下ニ見テ

春日註式云春日垂跡事第四十八代祢德天皇神護景雲元年十二月七日大和国城上郡安部山御坐 同二年正月九日大和国添上郡三笠山垂跡 同年十月九日寅日寅時太敷立宮柱同本宮廻廊始治承三年癸二月廿六日也註進狀 啓蒙
○回廊外ニツル門北内内門中ハ傍正門也

○若宮

本宮ヨリ一町許平林ノ中ニアリ

祭神三座内二座浦佐神也

○若宮垂跡四所相同乎不口兼滿云四座共

以同日影響也若宮遷座神代也此二社箋

○若宮浦佐兩神説

旧記云文永七年七月十三日秀氏狀云太

力雄太玉兩神也秘説 己上啓

○同上所述中欠若宮本縁若依字後則天

兒屋命御字乎將又別神而所秘邪云是也

難言是以不言矣決非兒屋命之子 啓

同根社 ○兵主神社 懸祝神社

一作橋 紀脚社 種樹神也所祭三座

一言王神社 月啓

○若宮外流小社一童子社ハ三輪の神次也

南又社ハ金山彦神次也東岳主社ハ流湯の

神○同若宮付リ内流小社ハ又ハ神職一

家此社秘して伝承なるものなりと云日記に

半之内流小社二座有也右力雄神

祭 五十六代清和帝貞觀元年十一月九日始戎五十五代文武帝仁壽三年始 月
御宇天安二年十一月三日庚申停平野春日等祭啓
○春日祭の六太史の神
るりて二月十日申日一年廿二日あり
使立の仁明天皇仁壽三年九月に中
基のめく養老二年に法和太史の
十一年十月九日唐申の終り一めん
已上旧記 以て

るりて二月十日申日一年廿二日あり
使立の仁明天皇仁壽三年九月に中
基のめく養老二年に法和太史の
十一年十月九日唐申の終り一めん
已上旧記 以て

るりて二月十日申日一年廿二日あり
使立の仁明天皇仁壽三年九月に中
基のめく養老二年に法和太史の
十一年十月九日唐申の終り一めん
已上旧記 以て

然發啓

五十一代外長記五部二

臨時祭 九十一代伏見院正應三年二月九日始 後深草御願也

○若宮祭 保延二年丙辰九月十七日始

○行事 六十六代一条院永祿元年三月

廿三日始 ○三笠山春日山ふみまきし

ひきこぐりてちのさきふまはは秋は

しほくすまふの地ふくさふまは

春日神託 諸人等神明ノタヌケヲ受テ

思ハ常ニ櫻心ヲシリバケヨトハハ毛

櫻心ノ神明ヲヘタツル事大雲ノ如シ 和論

○水屋社 祭神三座 素戔嗚尊 稻田姫

南海神女神云 祭ハ四月五日ニテ能アリ伏

院御宇始云 水屋川アリ 夫木 水

水屋川水云々云々云々云々云々云々云々云々

○八幡宮 漆上郡東大寺境内ニ在リ 祭神 宇佐三同キカ多ク 五コラ

皇御宇天平勝宝元年依八幡神託造宮

○改曆雜事記云孝謙帝天平勝宝二年宇

佐八幡東大寺^ニ入御^ニ 啓

中八幡大神 右姫大神 玉依姫 左六神功皇

后^{宗法縁起} ○天平勝宝元年十月十九日^内

裏^リ少^クて年七^トの^ト此^ト等^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

家^ノ初^メふ^トう^トり^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

甲寅^ノ乙卯^ノ卯^ノ辰^ノ年^ノ足^レ在^ル也^ト此^ト日^ニ

依^テ八幡^ノ大神^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

け^レん^トと^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

と^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

て^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

女^ノ神^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

禊^テふ^トり^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

位^ニ六^ノ束^ノ厨^ノ令^レ人^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

い^ト日^ニ成^ル官^ト初^メふ^トり^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

所^ニ成^ルつ^トと^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

月^ニ丁^ノ亥^ノ日^ニ四^ノ門^ノ約^クを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

依^テ見^ル公^トみ^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

強^ク日^ニ中^ニ能^クみ^トを^ト祈^ルる^ト也^ト此^ト日^ニ

乃可なりあうりももことゆら隠念ぬち
の作舟うて三月書入る格一なる宛
永十九年上り大七方申焚てて志木乃
津あふ極いもうては遺兵なり

此上は...

此は...

三三集
いその...

いづ...

櫛本社 同和介南三有り 祭神一座

午頭天王 山城祇園同神也 兼俱逢官記

此書...

下あも所せりそり信所集ふのり
あふふひらうあれも社名は雲云
社名上郷といふに上郷といふも
此の云長めを名扱にん丸に
はうまの寺塚といふも
此の所ははらうのやうに
辰市社 同郡大安寺村南に有リ 祭神二座
春日明神鹿寫ヨリ三笠山ニ移リ玉ヒレ時
供奉セシ時風秀行其社也春日記傳

辰市社 同郡大安寺村南に有リ 祭神二座
春日明神鹿寫ヨリ三笠山ニ移リ玉ヒレ時
供奉セシ時風秀行其社也春日記傳

辰市右所也

壬三集

北名ふ初めは清く 賣用清水アリ 月土

○新龍田 平群郡法隆寺六七町 堀民屋間有

此所ハ本龍田社ヲ聖德太子勸請シ至フ

也雅古天皇十四年二月十五日ニ聖德太

子法隆寺ヲ建立アラントテ其地景ヲ求

ニ巡行ニケルニ立田明神老人ニ化シ

玉ヒテ伽藍ノ地ヲ示メレ玉ヒ吾口又守護

ノ

神トナルベレト誓^ヒ物アリシ也依テ立野
本社ヲ此所ニ勧請^シレ玉フ也是法隆寺
ノ鎮守也云々

龍田社 月郡立野ニアラフ法隆寺ヨリ一里

余アリ 祭神二座

天御柱^{ニハレクニ}因御柱^ト号ス則^チ級長^ト戸^ト鳥^ト神^ト 級長

津彦神也 風神也

伊弉諾尊云我所生之國唯有朝霧而董滿
之哉乃吹^ク捲^ク之氣化^ス為^ル神号云級長戸^ト邊^ト命

亦云級長彦命是風神也 日本紀

天武天皇治四年夏四月遣小紫^ヲ養^ヒ濃^ク王^ト小
錦^ノ下^ノ佐^ノ伯^ノ連^ノ廣^ノ足^ノ祠^ノ風^ノ神^ノ于^テ龍^ノ田^ノ立^テ野^ノ 月上

○瀧祭神^ト与^テ廣瀨龍田^ト神^ト同^シ蘇^ト異^ト名^ト水^ト氣^ト神^ト
也故廣瀨龍田^ト神^ト号^ス天^ト御^ト柱^ト因^テ御^ト柱^ト是^テ天^ト逆^ト

戈守護縁 神祇本源

○神託 ナベテノ貴賤天ヲ祈地ヲニツリテ

諸神ヲ祈ヨリ汝ガ父母ニ能ツカエヨ則^チ兩親

ハ内外ノ神明ナレバ内アキラカナラテ外ノミ

ヲ子カフヘカラス 倭論語

撰社

ニ太神 若宮 瀧奈社

御位 清和天皇貞観元年正月廿七日廣

瀧龍田正一位 二十二社註云

祭 天武天皇治五年庚辰四月朔日祭龍田

夙神廣瀨大忌神 日本紀

日本紀 續日本紀 簾中鈔 年中行事

等三四月七月四日トアリ今八九月十三日也

立田和奇多シ龍田ト号スル事 引ク所

田ホテアリシゆゑ^{ライビシ}祚^シ行ラセ^ル所^{ナリ}ト云フ

ト云フ^{ドウジ}子^シト^ケ仕^ル所^{ナリ}ト云フ

所^{ナリ}ト云フ^シト^ケ仕^ル所^{ナリ}ト云フ

ハ^シル^ト云フ^シト^ケ仕^ル所^{ナリ}ト云フ

ト云フ^シト^ケ仕^ル所^{ナリ}ト云フ

ト云フ^シト^ケ仕^ル所^{ナリ}ト云フ

ト云フ^シト^ケ仕^ル所^{ナリ}ト云フ

ト云フ^シト^ケ仕^ル所^{ナリ}ト云フ

於此 淡田山祓禊... 立日川... 集 乃内... 神南... あり

廣瀨社 廣瀨郡河合村ニアリ 祭神一座
和賀宇加乃賣神

伊勢外宮神ト同じ水徳神也

廣瀨坐和加宇加賣命神社 延喜式

又御名大忌神 日本紀○又御膳持若宇加

賣命 令義解

天武天皇四年四月遣小錦中間人連善美山
山中曾稱連韓大祭大忌神於廣瀨河曲

本紀○伴神伊勢諾伊勢並尊子豊宇賀乃
賣神神祇官坐御食神也 神祇秘書

御位 祭 同上 祭立田廣瀨氏二四月四

日七月四日秋日本紀 西宮鉞ニアリ 日本

紀二四月朔日 ○廣瀨川方に在す

大宮殿 小折社 火神社

廣津川あり 法長全集に於て次々と記

せらせ川神ついで後世にありて我が村に

○若宮 宇智郡御山村ニあり 吉野ヨリ半里

許南也 此処井上内親王子ノ冥社也

あふ六雷神あり是井上内親ノ社也

親ノ社也 常あふあがはまにありて

後井上内親ノ社也 此の社にありて

と云ふはありて此の社にありて

おとつとてそれり宮と云ふは

吾村にありてありて母の宮なり

戸部ノ宮なりありて由來と云ふ

て西門と云ふはありてつねあり

し其の宮にありてありてあり

あやゆありてありてありてあり

初めありて 平安寺縁起に 井上内親ノ宮

帝ノ娘と云ふはありてありてあり

室亀元年ニ先仁帝ノ后ニ立玉り此御殿ニ

法長全集に於て次々と記

せらせ川神ついで後世にありて我が村に

○若宮 宇智郡御山村ニあり 吉野ヨリ半里

許南也 此処井上内親王子ノ冥社也

あふ六雷神あり是井上内親ノ社也

親ノ社也 常あふあがはまにありて

後井上内親ノ社也 此の社にありて

と云ふはありて此の社にありて

おとつとてそれり宮と云ふは

吾村にありてありて母の宮なり

戸部ノ宮なりありて由來と云ふ

て西門と云ふはありてつねあり

し其の宮にありてありてあり

あやゆありてありてありてあり

初めありて 平安寺縁起に 井上内親ノ宮

帝ノ娘と云ふはありてありてあり

室亀元年ニ先仁帝ノ后ニ立玉り此御殿ニ

テミレニス他戸親王ヲ皇太子ニスエ至ヒシガ
カ一ノ皇子山部親王ヲ太子トナサント冬
木百川ハカラヒケレバ井上皇后ト天皇ト
中アレリ成テ潜ニ天皇ヲノロヒ他戸太
子ヲ早ク即位セシメントハカル事アラハ
レケレバ皇后及ビ他戸太子ヲオヒテ口
ス事ヲヘテ井上皇后モ他戸太子モ皆卒
ス井上ノ怨冥龍ト成タリトイヒ傳タリ
已上王代一覽

○山具社

月靈安寺ノ内ニ有リ 祭所

井上皇后 東向 早良親王 北ノ殿南向

他戸親王 北向 已上三座

延暦十九年井上内親王ニ皇后ノ位ヲ贈

中墓ヲ陵ト号スベキノ宣下有リテ勅發

ハ從五位下葛井王ナリ 類聚国史心

○勝手社 吉野郡吉野山 祭神一座

愛髪曼命 傳未考

○天孫臨降之時三十二神相添而奉天降

也次為護國後見被下之三十二神云云愛
鬘命勝手太明神也 六十四神式

右形之山和分少御也明也

師兼千首

ニテ方燈や傍の山鳥神ありきもなりぬ
此所乃山鳥ホウザウ子文治元年移法未だし
しひの袋末義師乃し移り
んふそんだらしく人山鳥ミカゲたハ神振ミ山
法キヨミハシラ山鳥夫白と燈乃山鳥しとて燈とと
さひりりせむりて神女乃ありれ曲り

無くは宿禰乃神と振くところ神振山

○籠守社 川吉野山ニ有リ

大宮三座住吉同躰也 一宮記 神傳ハ

住吉ノ下ニ見エタリ

草振集

吹らるる名谷於以林とにりり傍とみり神傳

○金峯社 川吉野山ニ有リ

祭所 号藏王推現一人皇廿八代安閑天

皇也繼体天皇ノ長子也

○勾大兄廣國押武金日天皇男大迹天皇

長子母云目子媛日本紀

治二年十二月崩葬河内旧市高屋丘陵金

峯山推現是也 曆年史

昔役行者在吉野山時神現狀迎像行者云
此形難度衆生次弥勒形現行者尚云未也
次藏王推現出甚可怖良也行者云此我邦
之能化也 神社考

○金生明神 此社吉野山ニアリ 金峯之金ヲ

護神ト云 傳未考 金峯山ト号スルハ弥

勒仏出世ノ時地ニ敷キ金山ニ有故也云々

○喜喜山天神 初瀬アリ 三燈高ト云 傳未考

○葛城社 葛城上郡葛城山ニ有リ 祭神

一座 一言主命 一云爲事代主神取

變也 又云高彦根命公身也 系四傳

素戔嗚尊鳥子 啓蒙

○幼武天白王登華葛城山之時百官人等悉
給著紅紵之青摺衣服彼時有自其取向之
山尾登山上人既等天皇之幽薄亦其裝束

之狀乃人與相似不顧尔天皇望令問云於
茲倭國除吾亦無王今誰人知此而行即答
云之狀亦如天皇之命於是天皇大急矢刺
百官人等悉矢刺尔其人等亦皆矢刺故天
皇亦問云然告其名尔谷止岩而彈矢於是
谷云吾先見問故吾為名告皇者虫惡事而
一言虫並皇言而一言々離之神葛城之一言
主之大神者也天皇於是惶畏而白也我本
神有宇都志意義者不覺白而大御力及弓

矢始而脫百官人等所服之衣服之以拜獻
尔其一言主大神手授受其捧物故天皇之
還幸時其大神滿山味於長谷山口送奉故
是「一言主」之大神者彼時所顯也 古事記

○役小角者賀茂役公氏今之高賀茂者也
和列葛木上郡茆原村人少敏悟博學兼鄉
佛乘年三十二葉家入葛木山居巖窟者三
十餘歲藤葛為衣松果充食持孔佳明玉咒
駕五色雲優遊仙府驅逐鬼神以為使今日

○穴師社

城上郡穴師ニアリ

鳥居 遙海道

有リ社ハ遙東ニ有リ

天照大神天降玉フ時護存鏡ハ三面ヲ鈴

一合ヲ御身ゾエサセ玉フ其一ツノ鏡ハ大

神ノ御冥トシテ天照神ト御名ヲアカメ

又一ツノ鏡ハ月前御ヨメトシテ國懸神ト

御名ヲ申奉ル今紀伊國名草宮ニ崇ウヤ

ニヒ申大神也一ツノ鏡并子鈴ハ天皇御

食津神アレタユフベノ御食夜護日護ト

抄

本^{イハヒニキマク}社^{アノ}ニイニス大神也^{日本紀心}

此乃^{イハヒニキマク}十町^{イハヒニキマク}以^{イハヒニキマク}祀^{イハヒニキマク}崇^{イハヒニキマク}神^{イハヒニキマク}天皇^{イハヒニキマク}景行^{イハヒニキマク}

天皇^{イハヒニキマク}舒明^{イハヒニキマク}天皇^{イハヒニキマク}ノ陵^{イハヒニキマク}アリ

○三輪社

城上郡三輪ニ有リ 一鳥居ニ鳥居

樓門拜殿宗藏ナンドバアレ臣^{イハヒニキマク}神^{イハヒニキマク}殿^{イハヒニキマク}ハ無^{イハヒニキマク}シ

祭神一座 大己貴神

于時^{イハヒニキマク}神^{イハヒニキマク}光^{イハヒニキマク}然^{イハヒニキマク}海^{イハヒニキマク}忽^{イハヒニキマク}然^{イハヒニキマク}有^{イハヒニキマク}浮^{イハヒニキマク}來^{イハヒニキマク}者^{イハヒニキマク}云^{イハヒニキマク}如^{イハヒニキマク}吾^{イハヒニキマク}不^{イハヒニキマク}在^{イハヒニキマク}

者汝^{イハヒニキマク}能^{イハヒニキマク}平^{イハヒニキマク}此^{イハヒニキマク}國^{イハヒニキマク}卒^{イハヒニキマク}由^{イハヒニキマク}吾^{イハヒニキマク}口^{イハヒニキマク}在^{イハヒニキマク}故^{イハヒニキマク}汝^{イハヒニキマク}得^{イハヒニキマク}建^{イハヒニキマク}其^{イハヒニキマク}大^{イハヒニキマク}

○石上社者素戔嗚尊所持之十握劍也以
 人皇十代崇神天皇御宇鎮座也神宮御鈔
 ○旧記云磯城瑞籬御宇遷建布都大神社
 於大和國山辺郡石上邑則天祖授饒速日
 尊自天受來天璽瑞玉同共藏於石上
 大神建膽心命云々啓
 ○天足彥國押人命裔木事命市川朝臣大
 鷲鷯天皇御世遷徙賀布都斯神社於石上
 御布留村高庭之地以市川臣為神主新遷
姓氏

綱 ○撰社 布留社 傳未考

○御位 清和帝貞觀九年三月十日正二位
 ○祭 今世六月晦日也
 ○神庫ホコラ 靈室レイホウ 為世日づり遠く社所
 也のびてくは世神庫なり日在石上之國者
 方又尺代持み神所なり心ひりままか
スイケン
 名銀石の中なりとも六月晦日念に神所
 ありのら布留に銀石藏み納ありとも石
 乃外之出りとも之を七月七日神所ありて流

稚日女尊坐于赤眼殿而織神之御衣也素
戔烏尊見之則逆剥班駒投入於殿內稚日
女尊乃驚而墮杖以所持檢傷体而神退矣
故天照大神謂素戔烏尊云汝猶有黑心不
欲与汝相見乃入于天石窟而闲著石戸焉
於是天下恒闇無復昼夜之殊故會八十万
神於天高市而問之時有高皇產灵之息思
兼神云者有思慮之智乃思而白云宜圖造
彼神之家而奉招禱也故即以石凝妹為治

工採天香山之金以作日矛 又云使鏡作
部遠祖天糠戶者造鏡 已上日本純

按本朝鏡土大祖神也其神功併如上矣
式中林鏡作之神二座 一云鏡作麻氣神
社二云鏡作伊多神社也兼俱神名帳註
記垂路云麻氣神社天糠戶命伊多神社
石凝姥命也共坐城下郡 啓蒙

○荒神社 笠山ニアリ即未考 祭神三座
土祖神 澳津彦命 澳津姬神

太玉神娶天和迦流美豆姬為妻生兒渙津
彦袖渙津姬命此二神者諸人拜祠竈神者
也 先代旧事本紀

○高市社 高市郡高市有リ 祭神一座

事代主命 大己貴命子 系田前ニミエアリ

○大己貴神娶于坐边津宮高降姬神生一
男都味齒八重事代主神坐倭國高市郡高
市社云耳南備鳥社 旧事本紀

○太玉社 高市郡有リ 祭神一座 太玉命

高皇產天尊子 存部氏祖也 系山傳有前

○八咫鳥社 宇多郡有リ 祭神一座

賀茂武津身命 神武天皇々師欲趣中

洲而山中嶮絶無渡可行之路乃搏邊不知

其所跋涉時夜夢天照大神訓于天皇云朕

今遣頭八咫鳥且以為御導者果有頭八咫

鳥自空翔降天皇云此鳥之來自叶禊夢天

哉赫失我皇祖天照大神欲以助成基業乎

是時八伴氏之遠祖日巨命帥大來目督將

元戎咽山啓行乃尋鳥所向仰視而追之

日本

○武津之身命為八咫鳥神武帝

軍先導正統記 ○慶雲二年祭八咫鳥社

大和国宇多郡

○笹幡社 月都山边笹幡ニ有リ 祭神

天照太神 崇神天皇六十年御鎮坐云々

此後勢列度會ニ移至ヲト云々 世記心月

此所ノ傍ニ山边赤人ケ石塔アリ 乃所祀

○丹生社 上野郡下市傍山中ニ有リ 祭神

一座 罔象女神 祈雨止雨神也

伊弉諾尊為軻遇禰所焦而終其且終之

間臥生土神埴山姫及水神罔象女 日本紀

○神武天皇以天神教造嚴倉涉于丹生

川上用祭天神地祇 二十一社註

○當社為大和之別社事見延喜格不聞人

声之深山立我宮柱以敬祀者為天下降其

雨止霖雨者 月詠

○又云人皇四十代天武帝白鳳四年乙亥

御食持社

○棋任 御食持社

○御位 貞觀元年正月廿七日從三位

○此後未考 啓

○祭 北二社註式 魚祭礼

二上

大和国畢

○河内國 十五郡 田園一万九百七十七丁

又凡河内にもふ 神武天皇東征して移る時流達より

凡の撮括を委たり 大河を流る河内の草香色青雲白肩の津小

至り移る大河の内より河内と云ふ人皇十九代

及正天皇都を河内の丹比に移すありし事移る字

年之榮に離宮と云ふ處國之都ありし縁なり元明

帝は神代に詔して諸國の名紙二文字小定る凡

の字一省れあり靈龜四年四月大鳥日根和泉を

三郡に割る始て和泉國と云ふ極武天皇の神代

已為地理を苗圃の造り
 綿那 石門 古市 安福 大懸 高安
 河内 河原 淡田 交野 若江 淡川
 志紀 丹北 丹南

大管大申 四方二日余

知行高	卅万	千八百五十七石	江戸ヨリ	百三十里余
城下	狹山		丹南	

河内 一之宮 平岡大明神

名産

蓮根 日豆 青皮 金剛砂 本榎樹
 珠粒 干飯 鷹の鈴 寒晒粉
 烏芋 小角豆 蛇床子 菊頭實 柿 守口大根

名所

高瀬 竹川 交野 天乃川
 樟葉 忍岡 波瀲 倭加崎 高安 菅岡
 葛城 河内大和 桑岩橋 石川 料長

草香山

神社

平岡

誓田

恩智

水分

道明寺

天神

當宗

佐田

鏡社

降幡

岩船

以上

河内

柏原朝御也。以彦已曾保理命為

九河内国造

旧事紀

○平岡社

河内郡ニ有リ

祭神四座

第一殿 天子屋命

二彦波瀲武鸕鷀草

菁不合尊 三大国土命 四天照太神

五菁不合尊 彦火之出見尊子母豊玉

姫 天津彦火之瓊杵尊

彦火之出見尊 彦波瀲武之

外神傳系前ニエヌ

●當社鎮座入皇第 神武入皇御宇戊午年
春三月十日入當國草香村去平岡四月九
日皇師勅兵步趣龍山而兵路狹峻人不得
並行号此所云行難山社北十乃還欲東踰
伊勢山而入中洲時長足彦聞之云天神子
等所以尔者將奪我國則盡起屬兵於孔舍
衛坂會取有流矢中五瀨命肱皇師不能進
戰天皇變之乃運神策於冲衿云我是日神
子孫而此日征虜此逆天道也不若退還示

弱礼祭 神祇者即當社也天神者所謂天照
大神也地祇者蓋皇谷大國主天兒屋等是
也遂因此神熊乎中洲代凶徒其下一統矣
然後用耶於畝傍山東南疆原命有司終始
帝宅甫申九月納后辛酉正月即帝位也故
歷代自帝無不尊崇首武將無不仰全文
畧之故
○神別記云向皇產灵四世孫
許々止意尊子河内國平岡社也 啓
○櫻社 青柳社 岩本社 一言生社

大山彦社 戸隠社 右見社記 答

○俣也 仁明帝永和三午五月延三位勳

三等天児屋命正三位 結願日本純

貞觀元年正月廿七日正一位 神階記

○祭 春二月冬十一月上甲日 延喜式

○社記 正月十五日卜田祭 當日於神

供所燒小豆粥之上五寸掛竹管中納百穀

署依蒸之強弱占年穀之吉凶也蓋當社第

一神事 水速氏神主之外無有相承

同十六日踏歌祭 二月朔日平國祭及暮

而入山採木叩拜殿樓閣各趨歸也水速氏

申祝約拜而退 有社流口決 答

○神社 与々乃人一社と礼ありと云法乃

社のふゆのりんを多うんをいへ後よりけ

人ゆりるを母ひつらんをいへ乃後より其社と

いへるをいへるをいへるをいへるをいへる

をいへるをいへるをいへるをいへるをいへる

と云ひぬ

倭語

○^{コシ}譽田八幡

古市郡三有リ奈神 應神天皇

縁起ハ應神天皇葉乎河内国旧市郡長野
欽明帝始改造廣而前行事 啓

○譽田八幡天別致津天有以山原也陸八長

誓下号以二十代欽明帝廿年也始と三

而此社始公とて向中八幡右社功自辰

元仲と天有と縁起ハ昔光元天皇御乃年

繪を以りて日あ文社車御三系は乃

能と以りて年はあり八月廿五日御中興也

此社ハ有る三月十日出物水と入戸教と得

史板由りてりて年御水はり何者と知るる

又此はハ有る社切中辰夫は何者と知るる

○^{オシ}恩智社

高安郊恩智村三有リ 奈神一座

大御食津命 天兒屋命之末孫也

河内国恩智大明神中臣朝臣藤原朝臣之

遠祖也 樹下神系四

貞観元年正月廿七日正三仁勳六等恩智大

郡食津彦神從二位 神階日記

此と云ふり小恩智を以て正を分海乃松并
たをの地有り 名は元

○水ミヅノ分ワキ社ノ 石川部ニ有リ 傳亦考 天水分神

ト号スルハ速秋津彦神ハヤアキツノ十柱トシツラミコノ子第五也此
神飲法君子ノ待考耳

た及見ミ月ツキ神ノたハ其ノ子ノ孫ノ子ノ鳥ノ孫ノ初ノハ
楠正行ナカマサユキが等ノこノいハくハ小南ノ末ノ末ノのノ分ノ社ノ有リ

あり是レ神ノ心ノ成ルとスるハもトもト名ハ元
○道明寺天ミチアカサ 志紀郡内寺内ニ有リ

三町ハ森ハ一町た小梅と極中ニ法有り

此はハ者ノ若シ相ノ云ハのハ伯ノ母ノ也ハのハ分ノ社ノ有リ

四社ノ及シ鏡ノにハ字ノ及シ池ノ物ノ初ノ也ハ

兼ニ案ノ及シ有りハ字ノ多ク河ノ野ノ等ノハハ社ノ名ノ号ノ

五ノ社ノ等ノ松ノ梅ノ等ノ月ノ山ノ等ノ也ハ也ハ

四ノ鏡ノ四ノ鏡ノ以テ梅ノ箱ノ梅ノ有リ 法ノ宗ノをテ法ノ

二ノ箱ノ香ノ箱ノ一ハ合ニ今ハ昔ノ也ハ也ハ已上名ハ元也

○富宗トヨムネ社ノ 同郡ニ有リ ○仁治五年四月初祭之
宇多帝外祖父姓富宗氏 神社考

○佐田天神

澁川郡佐田三有リ

傳未考

佐田 治りてのふりては河内郡の治りては佐田

○鏡社

若江郡

○降幡社

石川郡

○岩船社

石川郡

・右傳未考

已上河内国畢

○和泉國

三郡

田園

四千百二十六丁

むす神功皇后新羅を征したる年當玉に

至りたまふに地中波浪の聲ありて飛泉涌

いばふま一丈餘あり其たぐれ其處のぶと

そ地を和泉と名づく今和泉郡國府乃

清水と云ふなり元正帝靈龜二年四月河内

國大鳥和泉日根三郡に割て改て和泉國と

名す是を揚州南と紀州東の河内と云ふ海に

大鳥日根和泉下管南北百余里

知行高十三万七千九百七十七石 江戸ヨリ百廿里余

城下 岸和田城 伯太

和泉一之宮 大鳥大明神

名産 向鏡 庖丁 弄原鋸 本綿嶋 糸石の如き

本綿紐 菱條 舳松瓦 漆 漆壺 漆焼陶

己上場の 細法儀 横山炭 林尾の巾着 近義掃 酢

忌田玉符魚 貝塚水粉 和泉石 若浦の巾着 佐野吹飯 泉の抽

名所 畑浦 茅湾浦 信太社 高師儀 真津濱

神社 三十三

○大鳥社 大鳥郡ニ有リ 一宮記云日本尊也

一部並照云昔有白鳳志來止是処天照太

神所也故名大鳥下啓

貞観元年正月廿七日從四位下 神階記

○神社 法人の公と云ふ事と云ふ事

神と云ふ事又云ふ事と云ふ事と云ふ事

あゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

の人と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

乃... 倭... 通

○蠅通

和泉三有リ祭神一座

昔未... 環上... 所為... 塗環... 於是... 本因... 臣位... 而為... 神有... 以請... 其社... 夜告... 云那...

多尔... 我... 留他... 乃於... 奴... 幾... 氏... 阿里... 通... 登波... 我... 波... 志... 良... 須... 哉

紀貫... 集貫... 之... 歸... 自... 紀... 伊... 國... 時... 馬... 病... 將... 斃... 路... 人... 僉... 云... 此... 所... 坐... 之... 神... 為... 崇... 貫... 之... 思... 此... 所... 無... 社... 又... 無... 社... 而... 欲... 祈... 亦... 無... 幣... 帛... 因... 濯... 手... 跪... 而... 問... 名... 答... 云... 蠅... 通... 明... 神... 乃... 詠... 和... 音... 云... 加... 枳... 勺... 毛... 利... 阿... 夜... 梅... 志... 羅... 奴... 於... 保... 曾... 羅... 尔... 阿... 里... 登... 保... 志... 烏... 波... 於... 毛... 布... 倍... 志... 耶... 波... 於... 是... 馬... 遂... 能... 行... 古... 事... 談... 云... 貫... 之... 還... 自... 和... 泉... 國... 時... 也... 已... 一... 神... 社... 考...

○攝津國 十三郡 田圃一萬六千五百卅七丁
 攝津初を浪速國と云ふ神武天皇征伐少小に
 飛波の河小島船を雲々多に奔御ありて河
 阿久岐小國の辨と云ふ又應神天皇の治時攝津と改
 己上五十四國也畿内と云ふ統く五十三郡と

○大坂 東山形西成郡と云ふ王造所名二十上町二十六丁
船場八十三丁中町五十五丁天保六十五丁を介道頓座例難波
新地南小一堤に難波阿波座新觀中の橋雲橋と云ふ祿
新地難波場江子橋寺橋安治川に本付川に雲の各あり
 官橋 依公儀 永橋 天満橋 天神橋 難波橋
 高麗橋 本河橋 農人橋 長堤橋 日本橋

東成 西成 八郊 島下 島上 豊嶋
 川邊 武庫 兔原 有馬 熊勢 住吉
 百濟 今廢ス

上管大上國南北百余里

知行高二十九万九千九百三十石 江戸より百三十里余

大坂 御城 城下 尼崎城

高槻城 三田城 麻田

攝津 一之宮 住吉大明神

名産

鰻頭 多藤橋 穀類 和泉産 米市 堂村本 材本市 長

其外大坂の所々小百工あり天満の野菜市難波場

の真市 海産物 鱈 田村 干 瓜 干 瓜 干 瓜

蟹 香 干 蕪 干 蕪 干 蕪 干 蕪

笠 依 裾 蕪 蕪 干 蕪 干 蕪 干

竹 燕 子 花 文 蛤 規 神 馬 村 郎 君 子 干 蕪 干

油 里 小 聖 蘆 葦 葦 草 葦 草 葦 草

炭 村 松 茸 茸 村 氷 餅 餅 村 氷 餅 餅 村

甜瓜 莊 幸 菓 菓 種 種 樹 樹 細 河 谷 産 近 臨 村

酒 田 棟 炭 炭 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

蓮 上 村 魁 蛤 海 蛤 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

蕪 小 村 館 酒 日 竹 器 町 有 馬 湯 山 産

刀 子 共 小 女 有 子 紙 紙 名 燈 油 油 池 田 産

水 碓 碓 石 石 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

海 産 魚 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

名 海 産 魚 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

有 海 産 魚 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

尊 菜 菜 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

池 碓 碓 石 石 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

碓 碓 碓 石 石 池 田 産 又 京 作 大 坂 へ

宿野村より能勢解本代切畑の西村より十月標炭山中より
 洞貢の 能勢解 本代切畑の西村より十月標炭山中より
 多く 躰 田尻村より

名所

生田 細江 大津岸 三津 敷津 佐吉
 忘水 瑞田 呼継橋 玉川 玉江 長橋橋
 那子海 鳴尾 武原 浦初橋 狹名 津和沖
 真野 萱原 芦原 浅沢 侍兼山 有馬
 阿久刀川 浅香浦 芦原池 安部橋 五月山
 水芝瀨 三島江 慶田神 須摩 上盤 娘橋

高津 高湊 田藁池 芦浦 湊川 箕面
 三犬女浦 龜井水 天王 津守 後吉
 圓鶴野 都賀野 鼓滝 昆陽池 朴津 須佐入江
 江口 加島 柏瀨 新幣島 草刈里 國府瀨
 上小竹 桑野 櫻井 霞洞 神南備杜
 芥川 原山 繁子杜 絶間池 味生宮 鳥鉤
 手標杜 水江 霞松原 依羅杜 通川 玉阪
 高熊山 富水 長洲 多田 荒府池 佛新松
 求女塚 灘 佐比江 駒林 下樋山

神社

茨住吉	北野	森宮	住吉
比咩	天満	生玉	安倍
曾	廣田	高津	今宮
上	西宮	逆櫓	御座
	生田	神明	座摩
	長田	曾提	縮荷

以上

● 攝津 攝字彙云靜謐也漢書攝然天下安
此國難波堀江王 著船之津以天下靜
謐之義名攝津云

○ 住吉社

攝津國住吉郡有リ 祭神 四座

底筒男 中筒男 表筒男 神功皇后
○ 伊弉諾尊往至筑紫日向小戸橋之檣原
而被除焉沈濯於海底因以生神号云底筒
男命又潛濯於潮中因以生神号云中筒男

命又潛濯於潮上因以生神号云表筒男命
是即住吉之大神也 日本紀

● 神功皇后 前二傳アリ

皇后代新羅之明年二月又表筒男中筒男
底筒男三神誨之云吾和魂宜居天津濱中
倉之長史使因者往來船於是隨神教以鎮
座焉 日本紀

住吉旧記云其荒 在筑紫之小戸和魂者
神功皇后征三韓時顯坐撰列託皇后体而

循行四方遂到撰州之地。宜言云真住吉。真住吉之國也因古。其地名云住吉。啓

榎社

後戸社 磯前津守之祖也

○郡位未考

○住吉郡後 六月晦日

郡田植

事アリ五月廿八日也 九月十三夜神前

ニシテ市ヲナス宝市ト云フトカヤ其外

年中ノ神事等多シ

位守社イノシ秋風吹アキカゼツキ色打イロウチスル神津カミツ白シロの行ユキ儀ノリ

和守ニギミのノ名ナ松マツ 姫松ヒメマツ 名越ナゴシ 粉濱コノハマ

名越ナゴシ 粉濱コノハマ 忘水ワシヅ 那古海ナゴウミ 名越ナゴシ 粉濱コノハマ

浅香浦アサカウラ 浦初嶋ウラハツシマ 長居浦ナガイウラ 佐比江津サヒエツ

細江ホソエ 浅沢小野アサザノ 何モ住吉ノ名所和哥

ニ詠セリ 和哥畧之

○安倍社 安倍王子アノベノミコ 住吉カミツ邊ノ安倍野アノベノ

有リ 祭神 熊野山クマノヤマ之ノ王子ノミコ云々

社記未考

新勅撰

新續古今三ヨル

安倍鳥或人此所云後君子可有考

○今宮ノ東ノ比須ノ 安倍野ノ北ニアリ 祭神

蛭子ヒルコ 天照大神 素戔嗚鳥 又北ノ社ハ

廣田神勸請云 傳未考 正月十日

此社ハ俗ハ十月多シヒトトシ 九月十

八日ハ社ヲ於テ人ノ家ニ於テ祭ル也

云々ノ乃ハ西ノ門ニ於テ祭ル也

○安居ヤスイ天神社 天王寺ノ西ニアリ 祭神一座

菅次 社記不得考 祭 八月廿日

○新御ニイコリヤウ靈 世ニ推シ御ノ矣ト稱ス

祭神未考 俗ニ鎌倉推五郎ト眞正カ又也

ト云フ事非也云祭 九月廿七日

○座ザ摩マ社 當社昔ハ八軒屋ノ边ホトリニ有レカ

中比淡路町一町目ニ移シ其後今ノ渡边ワタノヘ

勸請シケルト也 右所記 祭神 二座

神功皇后也 宮ヲ於テ祭ル之坐ニ坐シ摩ノ神又別也

○神名帳註云神功皇后也凱旋之日於此

所飲食也仍名 譽田天皇三年十一月前
 濟辰斯王叛遣紀名 惟祢羽田矢代宿禰冬
 我之即目於難波沼中祀之仍為住吉神也
 榎神 啓 神切曾辰三韓山返流河りて以時
 仇仇始入以流居る上小以休し流今以
 新居居る小田居るに以流居る也
 るに或ふりてとみ月廿二日の玉乳の神
 形物と云りたるに以流居るに
 ○玉造稻荷 玉造ニアリ 祭神 稻荷明神

勸請云々 傳未考

○森明神 祭神 用明天皇 傳未考

○生玉社 東生郡天王寺辺ニアリ 祭神 一座

天生玉神 天孫降臨時陪祀神也

○活王金新由部直遠祖也 旧事記 ○社家

註進云天孫瓊杵尊降臨之時陪祀三才

二神之中天活玉神是也神武天皇元年

春二月到難波之磯日行武神云爰去明應

年中本願寺僧來此所而創寺院以神地狹
 境内矣依斯神惠（神惠）彼僧也于時（神）
 殿造替之宿禰而令神主藤原古勝（古勝）
 也數日後起寢床遂奉遷替神殿其後信長
 兵變之日殿閣悉為火燼總以神坐遷別所
 耳慶長年中秀吉築城郭之序（今神地）
 ○御位 貞觀元年正月廿七日從五位下
 此後未考 已上啓

○高津社 高津ニ有リ 祭神 仁德帝

云々 山あり六坊内六町にありて仁法堂此
 皇居北比之と云り 為依元此而西生於
 金葉 ありて此の事と云ひはるは是の事と云ひはるは
 彩助撰 云々の月也者や云ひはるは是の事と云ひはるは
 ○逆槽神 東成郡大坂ニ有リ 祭神
 天照皇大神 号朝日宮 日記云後鳥
 羽院文治元年二月十八日義經与推原景
 時為逆槽之論此（此）為利運義經於此（此）勸
 請神明（奉） 啓。松や町上表所 名は兒

○神明 大坂蟻畑町ニ在ル 所祭

天照大神 八幡太神

後陽成院御宇勸請云々

○曾根崎社 曾根崎ニアリ 祭神 菅家

傳未考

○北野天神 大融寺ノ邊ニ在リ 祭神同前

京師ノ北野ヲ摸スルト云々 系小野宮云々

ワシト余殿ハハノ造受シモ昔此所ノ夜

小七松ハハノ切リ希クハハノ切リ云々

云々ハハノ切リ云々ハハノ切リ云々ハハノ切リ云々

○天満宮 難波津天満ニ有リ 祭神 京師北

野宮同シ 村上氏皇御宇天曆年中ニ詔

ニヨツテ勸請云々社記未考 祭 六月六

五日 九月廿五日

○廣田社 武庫郡西宮郷廣田村ニ有リ

祭神 一座 膳所大神 又云五座 説ハ

○神功皇后 征新羅之出陣 忍熊王起其屯

於任者皇后ミコト之還マシ務ツカサ口クハ水ミヅ下ノ而シテ卜ウラナフ之ヲ於是ニ
天照太神アマテラス誨シテ之ヲ云ハク云ハク之ヲ蓋シテ魂ミタマ不可ツク近ク皇后ミコト當マシ
居ル御ミコト心ココロ廣ヒロ田タ國クニ即チ以テ山ヤマ背セ根ネ子コ之ノ也ナリ葉ハ山ヤマ媛ヒメ
今イマ祭マツル之ヲ日本ヤマト紀キ

廣田者天照太神之所シテ也ナリ可謂イハレ神宮カミミヤ御ミコト同シ
体タマシ 二王ニミヤ註ツキ式シキ

註進記云人皇百一代後小松院治承三年
應永十三年四月四日甲子伯三位資忠王
依招也日本紀第九讀卷廣田社事余之有

不審シラ魚イサ為シテ社ヤシロ秘ヒ委ツキ細コ演ウチ流リ云ハク如シ社ヤシロ官ツカサ申ウケ詔ミコトノコト者ナリ
奉ホウ書カキ廣ヒロ田タ社ヤシロ者ナリ神カミ功イサヲ皇ミコト后ノ也ナリ自ヨリ餘ヒ神カミ社ヤシロ意ココロ得ユク
之ノ勸コト請コト欽コト一ヒト殿ノ任トシ吉クハ 二殿ニノ廣ヒロ田タ 三殿サンノ廣ヒロ田タ 幡ノ

四殿ヨンノ南ミナミ官ノ 五殿イツノ八ヤチ祖ソ神ノ 已イ上ノ五ノ社ノ也ナリ

南官ミナミノツカサ 大山オホヤマ咋クハ 八祖ヤチソ神ノ 高タカ皇ミコト產ウチ身ミ尊ノ 神カミ石イシ 帳チヤウ

案シテ以テ廣ヒロ由ユ為シテ皇ミコト后ノ難ガシ心ココロ得ユク欽コト不レ合ハズ日本ヤマト書ノ
紀キ等トウ旨ツキ 啓ヒラケ

○御ミコト位ノ 貞マコト觀ミ元ノ 正月ツキガタチ廿ニ七日ノ 從ツク三ノ位ノ 勲ノ
八等ヤチノ 廣ヒロ田タ神ノ正マコト三ノ位ノ 神カミ階ノ記ノ

貞觀二年十月六日 神名帳註

當社イハレ下シタ多タ々タ 此コノ社ヤ今イマ之ノ祭マツル入イリ祭マツル所トコロ

久クニ之ノ分クニ之ノ分クニ之ノ分クニ 此コノ田タ之ノ社ヤ所トコロ也ナリ

○西宮ニシノミヤ 西宮町ノ西ニシノミヤノミヤ 祭神一座

蛭子ヒルコ 世ヨ所謂イハレ西宮ニシノミヤ是ナリ也ナリ

相殿神二座 事八十コトヤソ神カミ 大日貴命オホヒツノミ

蛭兒尊ヒルコノミ 此神コノカミ出イデ已ニ三ミ歲トシ脚ツキ猶ナラ不レ立テ故ナリ載リ之ヲ於ニ

天磐アマノイハ擗ク楫ノ船フネ而シテ順タテ風ノ放ナ棄ス 日本紀

初ハジメ伊イ勢セ諾ノ尊ノミ伊イ勢セ冊ノ尊ノミ巡メ柱ノ之ノ時トキ陰カミ神ノ生ナ祭マツル

嘉言カミコト既イデ違ヒ陰陽イナメヲ之ノ理コト所以ナリ今イマ生ナ蛭兒ヒルコ 同上

相殿神 事八十コトヤソ右ミダリ 大日貴命オホヒツノミ兄ケイ也ナリ

大日貴命オホヒツノミ 蛭兒ヒルコ 事八十コトヤソ傳ツタ系ケイ

圖上カミニ見ミエタリ

右相殿二座之說ミダリノイハレ上カミ部ベ兼カミ熱ネ於ニ二ニ社ヤ註ツキ說ツキ也ナリ

攝社セツヤ 若次社ニガキヤ 津社ツヤ 岡田社オカダヤ

湏川御前スガクノミマエ 真夷社マキヒヤヤ 西宮辰巳田中ニシノミヤツチノナカ有アリ

○生田社イクタヤ 八部ヤソ神カミ生ナ有アリ 祭神一座

稚日ニギヒ尊ノミ 称イハレ天照アマテラス大神オホカミ 妹イモ有アリ習ナ乎ナリ 啓

是後^{コト} 智^チ日^ニ女^メ尊^ノ坐^ス于^リ新^ニ羅^ノ而^{シテ}織^ル神^ノ之^シ御^ノ衣^ヲ
也^{ナリ} 是^レ本^ノ紀^ニ 神^ノ功^ノ之^シ后^ノ紀^ニ云^ク代^ニ新^ニ羅^ノ之^シ明^ノ年^ニ
二^ノ月^ニ推^シ日^ヲ女^メ尊^ノ誨^テ之^シ云^ク吾^レ欲^ス居^ル活^ノ田^ノ長^ノ峽^ノ國^ニ
因^テ以^テ海^上五^十挾^テ茅^ヲ蓋^ス祭^ス

○御位 自^レ親^ク九^年十^二月^十六^日從^テ三^位

生^レ田^ノ子^ノ以^テ治^ル

及^テ推^シ玄^ノ 生^レ田^ノ子^ノ以^テ治^ル 生^レ田^ノ子^ノ以^テ治^ル 生^レ田^ノ子^ノ以^テ治^ル
生^レ田^ノ杜^ノ 川^ノ 池^ノ 之^シ 矣^{ナリ}

○長^ク田^ク 撰^ル津^ノ部^ニ有^リ生^レ田^ノ及^テ也^{ナリ} 額^ニ云^ク長^ク田^ク

大明神 祭^ス神^ノ一^座 事^ノ代^ノ主^ノ尊^ノ

大^ニ己^ノ貴^ノ命^ノ子^ノ傳^ノ系^ノト^シ見^エタ^リ

○皇后^ノ伐^テ新^ニ羅^ノ之^シ明^ノ年^ニ二^ノ月^ニ皇^ノ后^ノ之^シ船^ノ廻^リ於^テ
海^中以^テ不^能進^ム更^ニ還^ル務^ク古^ノ水^ノ門^ニ而^シト^ス之^シ於^テ是^ニ
事^ノ代^ノ主^ノ尊^ノ誨^テ之^シ云^ク相^ノ吾^レ于^リ海^ノ心^ニ長^ク田^ク國^ニ則^シ以^テ
葉^ノ山^ノ媛^ノ之^シ弟^ノ長^ク媛^ノ命^ノ 啓

○次^ニ住^ル吉^ノ 次^ニ原^ノ郡^ニ有^リ長^ク田^ク生^レ田^ノ及^テ同^ノ

海^道 有^リ祭^ス神^ノ三^座

表筒男 中筒男

底筒男

○神功皇后伐新羅之明年二月表筒男中筒男底筒男三神詣之云吾和氣宜居大津濱々中倉之長峽因看往來船於是降神教以鎮坐焉

○比咩語曾社 康生都_{カキム}有リ 祭神一座

下照姬命 大日貴命子也 此神女出雲鹿碕神和歌祖神也 古今集卷註

○高皇產灵尊賜天稚彥夫鹿兒弓及天羽

羽矢以遣之此神亦不忠誠也來到即取女顯國玉之女子下照姬 又名高娘又名稚國玉

又曰天稚彥中矢立死天稚彥之妻下照姬哭泣悲哀声達于天 日上日本紀

田心娘命生妹下照姬命 旧事紀

櫻別康生都比賣許曾神社下照姬也今按比賣許曾在日本紀卷六与此不同

已上 神代系新傳

●大日 命 都味_{ツミ} 尊_{ノミ} 事_{コト} 成_{ナリ} 主_{ヌシ} 神

味鋳高アチヌ振命ヒレノミコト

下照姬命シタテヒメノミコト

高照光姬命タカテヒメノミコト

○カミミヤ上宮天神

高槻タカヅキ三有ミリ

祭神一座

菅家

里諺曰村上天皇天曆年中奉于

北野之日先祀于此地也

鳥居銘云撰律

国上宮者菅袖掃洛寓居之名區也

日本風土記卷三

